

1982 年長崎豪雨災害に関する記念碑等の調査

高橋 和雄

長崎大学大学院工学研究科 インフラ長寿命化センター

1. まえがき

1982(昭和 57)年長崎豪雨災害から 30 年目の 2012 年 5 月から 11 月にかけて、長崎県内ではさまざまな行事等が継続して開催された。この時点で、長崎防災都市構想で計画された防災事業はほぼ終了するとともに、長崎豪雨時に指摘された気象情報の課題、土砂災害のソフト対策等が整備されていた。一方、災害体験の風化、社会構造の変化、災害の巨大化等が新たに顕在化しており、長崎豪雨災害を継承するとともに、自助・共助の減災対策の重要性が確認された。これを契機に長崎県では 2013 年に防災基本条例「みんなで取り組む災害に強い長崎県づくり」が制定され、災害体験の継承、防災教育等が重要な項目として書き込まれた。長崎市内では中島川流域の眼鏡橋の現地保存や水道用ダムの治水ダム変更に伴う歴史的なダムの景観を残しながらの改修を除けば、長崎豪雨災害を伝える遺構がきわめて少ないことに気が付いた。そこで、2013 年から長崎豪雨災害の記念碑、慰霊碑、水位標の現地調査、自治会等を対象とした災害伝承、長崎豪雨災害時の状況等のヒアリング調査を実施してきた。記念碑等についてはほぼ調査が終了したので、本稿でその概要を紹介する。

2. 長崎豪雨災害の概要

長崎豪雨災害で長崎市郊外の長与町役場で記録した時間雨量 187 ミリは、現在でも日本観測史上最高である。また、東長崎で記録した 3 時間雨量 366 ミリも平成 16 年時点では 3 位で、まさに記録的な集中豪雨であった。災害の形態としては、市内を流れる中島川、浦上川、八郎川等の河川氾濫と郊外部での土石流、斜面崩壊等の土砂災害が同時多発した。死者・行方不明者は 299 人に達し、そのうちの 87.6%は土砂災害によるものであった。また、出水による犠牲者の 40%は車で移動中の被災であった。被害額は約 3,153 億円で当時の長崎県の年間予算の約 70%に達した。このような大災害になった原因としては、平地が乏しい長崎市を中心とした長崎県南部地方では人口の増大とともに、住宅地が斜面地に拡大したことや明治時代以降に大災害がなかったこともあって、土砂災害危険箇所の防災工事、都市基盤やライフラインの防災対策が不十分であった。この結果、中島川に架かる国の重要文化財眼鏡橋の半壊、交通施設やライフライン等の都市災害が発生するとともに、多量の車の被害、地下室の建物付属施設の冠水被害等の新しい型の災害が発生した。当時の防災対策は、ハード対策が中心で、土砂災害や洪水に対する認識の不足や警戒避難体制等のソフト対策が不十分であった。同時多発する災害に対して情報収集・伝達、職員の招集、避難勧告の発令等の地域防災計画が機能しなかった。

3. 調査方法

長崎豪雨災害による土砂災害関係の石碑等については、NPO 法人長崎県治水砂防ボランティア協会が調査し、文献 1)に 12 箇所の石碑等と碑文をまとめている。同協会の担当者の協力を得て、調査を開始した。長崎市および諫早市飯盛町の土砂災害による死者が出た被災地、浦上川、中島川、八郎川等の河川氾濫による浸水地の現地調査、自治会や長崎市防災危機管理室でのヒアリング等で計 24 箇所の記念碑等を確認した。長崎豪雨災害から 30 年経過しているが、既に道路

表-1 長崎豪雨災害の記念碑等の一覧

流域名	区分	名 称	設置年	設 置 者	設置場所
浦上川	慰霊碑	大水害慰霊塔	1984	川平町自治会等	長崎市川平町
	慰霊碑	長崎大水害慰霊供養塔	1988	西浦上東部地区連合自治会	長崎市昭和3丁目
	記念碑	長崎大水害浦上川災害復興記念碑	1988	西浦上東部地区連合自治会	長崎市昭和3丁目
	水位標	照明時計塔	1983	国際ロータリー	長崎市城栄町
中島川	慰霊碑	長崎大水害犠牲者慰霊ノ碑	1983	妙相寺	長崎市本河内4丁目
	水位標	S57.7.23 長崎大水害水位	不明	プリミエールフクダビル	長崎市魚の町 (中島川公園横)
	記念碑	水害復興と友好の記念碑	1989	長崎市	長崎市栄町 (中島川公園)
	水位標	長崎大水害最高水位 (照明時計塔の代替)	2009 (不明)	長崎市 (国際ロータリー)	長崎市築町
	水位標	1982 年 7.23 大水害被災水位	不明	浜市商店連合会	長崎市浜町アーケード街 (2箇所)
	記念碑 (水位標)	長崎大水害記念塔	1984	長崎中央ライオンズクラブ	長崎市浜町
八郎川	記念碑	7.23 水害記念碑	1983	東町船石地区自治会	長崎市東町侍石
	記念碑	長崎大水害記念碑	1990	船石町自治会	長崎市船石町
	慰霊碑	長崎大水害全犠牲者 慰霊之鐘	1985	滝の観音神社霊源院 奉参会	長崎市平間町
	記念碑	石橋再建の記 (滝の観音神社内の羅漢寺)	1987	霊源院奉参会、間の 瀬自治会等	長崎市平間町
	記念碑	昭五七・七・二三長崎大水 害碑	1992	矢上地区自治会	長崎市矢上町
	水位標	七・二三最高水位	1992	矢上地区自治会	長崎市矢上町
	水位標	昭和 57 年 7.23 長崎大水害 水位	不明	長崎市	長崎市矢上町(長崎 市東長崎市支所)
	記念碑	七・二三長崎大水害碑	1983	日見地区連合自治会	長崎市界2丁目(長崎 市日見支所)
	慰霊碑	殉難之碑	不明	不明	長崎市芒塚町
	記念碑	七・二三長崎大水害国道三 四号災害復旧記念碑	1983	長崎地区ライオンズ クラブ	長崎市芒塚町
山川河 内川	記念碑	水害記念碑	1983	山川河内地区自治会	長崎市太田尾町
田結川	記念碑	水害記念塔	1986	補伽組	諫早市飯盛町補伽
潮見川	記念碑	古賀波神社	1983	潮見町自治会	長崎市潮見町
	記念碑	靖国神社	1986	潮見町自治会	長崎市潮見町

工事、河川改修で移設、撤去された石碑等や雑草に覆われて近づけない石碑等も見受けられた。現時点で確認された長崎豪雨災害の記念碑等の一覧を表-1 に示す。

4. 調査結果

表-1 の内容を記念碑、慰霊碑および水位標に分類して、長崎豪雨災害で被害が発生した流域別に示すと、表-2 の結果となる。設置数は被害が大きかった八郎川流域に多い。記念碑の数が最も多いが、碑文の内容を見ると、被害の状況、復旧・復興を説明したものが目立つ。災害時の状況を克明に記録した資料価値が高い碑文が長崎市山川河内²⁾と飯盛町補伽の記念碑に見受けられる。慰霊碑は土砂災害が発生した上流・中流部に設置され、水位標は河川氾濫が発生した下流部に設置されている。

記念碑等の設置主体の分類を表-3 に示す。自治会や連合自治会による設置が半数を占め、記念碑(写真-1)と慰霊碑(写真-2)がほとんどである。設置経費は現在よく見られる義援金ではなく、寄付金や材料の寄贈が多い。設置場所は公民館や消防団詰所等の公共施設の敷地が多い。自治会等で接した記念碑等は現在でも地元で清掃や草刈りなどの維持管理がなされている。

国際ロータリーやライオンズクラブは 30 年以上の前から災害状況を地域に残す水位標の設置や記念碑の設置に取り

組んでいることは高く評価される。寺や神社による設置は慰霊碑等が多い。

中島川下流域の眼鏡橋横の右岸側の民間の建物には建物の壁面に水位標が設置されている(写真-3)。また、浜町アーケード街の両脇の柱に 2 箇所に浜市商店連合会によって、1982 年 7.23 大水害被災水位 173cm を示すプレートが 2 箇所設置されている。これらはともに水位標だけで説明板がないので、一般には気が付きにくい。なお、確認した限りでは、長崎県や国土交通省によって設置された記念碑等は含まれていない。

設置時期については、豪雨災害から 1 年後の 1983 年が最も多く、8 個設置されている。以後

表-2 流域別の記念碑、慰霊碑および水位標の設置状況

流域名	全個数	記念碑	慰霊碑	水位標
浦上川	4	1	2	1
中島川	6	2	1	3
八郎川	10	6	2	2
その他	4	4	0	0
計	24	13	5	6

表-3 記念碑等の設置主体

設置主体	個数
自治会・連合自治会等	12
国際ロータリー・ライオンズクラブ	4
寺・神社等	3
長崎市	2
ビル・施設管理者	2
不明	1
計	24



写真-1 昭五七・七・二三長崎大水害碑と七・二三最高水位標 (矢上町)

順次設置され、水害後 10 年の 1992 年に最後の記念碑が矢上町で設置されている。

5. 課題と提案

(1) 慰霊碑等を設置した自治会には、毎年慰霊祭を開催してきた自治会もあるが、関係者の高齢化のために実施が困難なケースも生まれつつある。継続のための方策を考える時期に来ている。

(2) 滝の観音神社の長崎大水害全犠牲者慰霊之鐘のように、現時点でも判読しにくい碑文がいくつか見受けられるので、復元するか文字を読み取って残すかの対応が必要である。

(3) 記念碑や水位標の存在が防災関係者に知られていない。また、地域からも忘れられつつあり、今後管理されなくなるおそれもある。資料を整理して、県や市の防災ポータル等に掲載する等の対応が必要である。

(4) 筑後川流域や本明川流域では近年になって 1953 年西日本水害や 1957 年諫早大水害の水位標が河川管理者によって設置されている。長崎豪雨災害時の浸水深の資料は残されているので、長崎県管理の河川についても今後水位標等を設置して欲しい。



写真-2 長崎大水害犠牲者慰霊之碑
(妙相寺)

謝辞

本調査を実施するに当たり、長崎県治水砂防ボランティア協会秦砂防部長（当時）、長崎市防災危機管理室、国土交通省長崎河川国道事務所に記念碑等の場所の確認等でお世話になった。長崎市山川河内自治会と諫早市飯盛町補伽地区自治会にはヒアリング調査でお世話になった。関係者の皆様に感謝を申し上げる。また、本調査に（一社）九州地方計画協会の支援を受けたことを付記する。



写真-3 S57.7.23 長崎大水害水位(魚の町)

参考文献

- 1) 長崎県治水砂防ボランティア協会：碑文が語る土砂災害の歴史，pp.11-25，2009.3
- 2) 高橋和雄編：災害伝承 命を守る地域の知恵，pp.83-110，2014.5